

# 平成28年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞



2017年3月 駒澤大学 FD推進委員会



## 「学生が選ぶ ベスト・ティーチング賞」

◆目的:

学生から見て効果的な教育方法を実践する教員を表彰し、その教育方法を全学的に共有することで、大学全体の教育の質を向上させる。

◆実施期間 : 2016年11月9日～30日

◆投票対象者 : 駒澤大学の全学部生(15,362名)

◆投票対象科目: 2016年度に開講された全ての科目

◆投票方法 : C-Learning上の投票専用ページ

※学生は、当該年度に履修した「科目」1つのみに投票が可能。

◆投票総数 : 1,610票 (うち有効票: 1,377票)

◆集計方法 : 各「科目」の得票数を単純合計。

※今年度の履修状況が確認できない場合(過去の履修)や、投票理由の無記入、担当教員が特定できないもの、誹謗中傷、その他企画の趣旨に沿わない投票は無効票扱いとした。

※同一科目名で開講時限が違うものについては、科目名および担当教員が同じ科目群を1科目として合算している。

1位



# 経営戦略論 (29票)

経営学部 経営学科 教授  
中村 公一先生

## Q. 受賞の感想は、いかがですか？

「率直な感想は、まだまだいけるなと思いました。経営戦略論は金曜4限の授業で学生が疲れていることもあり、もっと工夫することができると考えているからです。ゼミでやっているグループワークなどを取り入れて、学生が聞いているだけではなく、主体的に取り組むことができる講義ができればと思っています。」

## Q. 講義で気をつけていることを教えてください。

「何も知らないという前提で、動画や具体例を多く出して、現実でイメージしやすいような授業を心懸けています。学生自身がためになる話を徹底的に研究して提供できるようにもしています。アーティストのパフォーマンスが一方的であるのと同じように、一方的な授業でもどこかエンターテインメント性があり、心を動かせるものを目指していきたいです。」

## Q. 学生に望むことは何ですか？

「最も必要なものは、専門的な知識よりも、いかに限られた情報から解決策を導き出すことができる力だと思います。分からないなりに粘り強くやる力、まずは自分で動いてみるのが重要です。」



何でも許してもらえるのは、学生のうちが最後です。大学生ならではの自由度、無敵さを活かして、今のうちにどんどん動いてほしいです。」

## 学生からの投票コメント

◆授業の題材に漫画やゲームなど学生が興味を持てるような内容を盛り込んでいるので、自ら理解を深めたいと思えるような工夫がされているから。

◆どうやったら学生が興味を持ってくれるか、理解を深められるかといった先生自身の熱いこだわりが、レジュメや講義から伝わってきた。

◆隔週で課されるミニレポートは、テーマについて能動的に調べなければならないが極端に難しくもなく、授業の理解を深めるのに役立ったから。

※投票コメントは、抜粋・整理したものです。

2位



## 市場戦略概説 (26票)

経営学部 市場戦略学科教授  
兼村 栄哲先生

### Q. 受賞の感想は、いかがですか？

「最初は、嬉しいのと同時になぜ？と思いました。  
特に工夫しているわけでもなく、当たり前のことを徹底しているだけなので少し驚きました。でも学生に選んでもらえたことは、素直にとっても嬉しいです。」

### Q. 講義で気をつけていることを教えてください。

「事前の準備でレジュメをしっかり書いたり、授業をする際に大きな声を心がけたり、笑っている学生はしっかり注意したりと、当たり前のことを徹底しています。過去に10年ほど、別の先生の講義をひたすら聴講しに行き授業を勉強していたことがありました。その経験もあり、他の講義との関連性を意識して、より各分野に詳しい先生を紹介できるようにしています。時間があればもっと他の大学の講義も見たいと思うのですが、なかなか最近は聴きに行くことができていません。」

### Q. 学生に望むことは何ですか？

「今の学生にはもっとフレンドリーになってほしいです。  
10年以上前だと、学生が空きコマの時間に研究室に来て、私が仕事をしている隣で雑談していたのを覚えています。そしてその後は学生たちとご飯を食べに行くというのが日課でした。そこで他愛のない話をしたり、学生の相談に乗ったりしていました。今の学生ともそういった関係になれたらなと思っています。」



## 学生からの投票コメント

- ◆ 配付されるレジュメが見やすくまとめられていて、予習復習に役立つ。  
声は大きくて聞きやすく、また板書の字がきれいで図も分かりやすいのでやる気が出る。
- ◆ 授業の進行がスムーズで、少しでも喋っている学生には注意してくれる。  
真剣に授業をしていて、90分を有効に使っていると思う。
- ◆ 実在の企業名や商品名など、私たちの身近なものを使って解説してくださるので理解しやすい。理論を難しいと感じている学生にもとっつきやすく感じた。

※投票コメントは、抜粋・整理したものです。

3位



## 心理学 (24票)

文学部 心理学科 非常勤講師  
小野 洋平先生

### Q. 受賞の感想は、いかがですか？

「率直に、学生が積極的に行動して投票をしてくれたことをとても嬉しく感じました。ベスト・ティーチング賞はポスターがとても印象的で、心理学的に考えてしまう職業柄、言葉や色の組み合わせにとっても面白さを感じました。」

### Q. 講義で気をつけていることを教えてください。

「一般的に知られている心理学と、学術的な心理学では理解の仕方が異なってきます。学術的内容だけでなく、いかに具体例にも触れて学生の興味関心を惹き、理解を深められるかを考えて説明するようにしています。オリジナルのコメントカードを活用して、学生の意見を客観的に取り込むようにも工夫しています。」

### Q. 駒澤大学に通って、良かったと思うことは何ですか？

「学生の時、駒澤大学の入学式で仏像を見て衝撃を受けた事をよく覚えています。今までの人生で仏教を学ぶことがない中、禅を通して「仏教と人間」を身近に感じる事ができました。また、学校のキャンパスで実際の坐禅が体験でき、駒澤大学に通ったことで仏教に興味と関心を持つことができました。」

人生の生き方に関わってくる宗教を学ぶことができ、本当に良かったと思っています。」



## 学生からの投票コメント

- ◆学生のペースにあわせて授業を進めてくれるので、ノートをちゃんと取ってから話が聞ける。学生に「どうしたらもっと分かりやすくなるか」を聞いて、それを実践してくれる。
- ◆出席カードに質問欄があり、質問に対して次の授業で必ず回答してくれるのがとても嬉しく、やりがいを感じる。授業アンケートもフィードバックしてくれた。
- ◆実体験を交えたり、図や映像を使って説明してくださるので分かりやすいから。日常生活との繋がりが見えて、心理学を始めて学ぶ人でも興味が持てる授業だと思います！

※投票コメントは、抜粋・整理したものです。

## 4位 経済学入門a (23票)

経済学部 経済学科 教授  
矢野 浩一先生

### 学生からの投票コメント

- ◆私語禁止など教場内の雰囲気作りを徹底している。説明や板書は丁寧で、内容も面白い。
- ◆難しい内容でも、パワポや具体例をうまく使って分かりやすく説明して下さった。
- ◆声が大きく、関連する話題も多く話してもらえて、なにより内容が分かりやすかった。

## 6位 英語 I Ab (18票)

総合教育研究部 外国語部 第一部門(英語) 助教  
フレンチ ナサニエルS.先生

### 学生からの投票コメント

- ◆アクティブラーニングを意識して、将来必要な会話力が身につく授業スタイルだから。
- ◆高校英語で習う文法などには囚われない、多彩な表現を楽しく学ぶことができる。
- ◆授業を毎回盛り上げてくれ、学生と積極的にコミュニケーションを図ろうとしてくれるから。

## 8位 特別活動論 (14票)

総合教育研究部 教職課程部門 非常勤講師  
浅見 慎一先生

### 学生からの投票コメント

- ◆リアクションペーパーに対して真摯に答えてくれたり、褒めてくれたのがとても嬉しかった。
- ◆グループワークの際にはBGMを流して、話し合いやすい雰囲気を作ってくれる。将来は浅見先生のような優しい教員になりたい。
- ◆レジュメが分かりやすく、体験談も勉強になる。

## 9位 経営学 (13票)

経営学部 経営学科 教授  
中村 公一先生

### 学生からの投票コメント

- ◆漫画やCMなど身近な例を題材にしているので、初めて学ぶことでも親しみやすかった。
- ◆授業で画像や動画を見せて、より具体的に理解できるようにしてくれたから。
- ◆レジュメやパワーポイント、授業の進め方が見やすい、覚えやすい工夫がされていた。

## 5位 宗教学概論 (21票)

仏教学部 仏教学科 講師  
徳野 崇行先生

### 学生からの投票コメント

- ◆配布資料とパワーポイントが見やすく、時々映像資料も使ってくれるのでわかりやすい。
- ◆解説が丁寧で細かい。時事ネタと絡めて説明してくれるので理解しやすく、興味が増すから。
- ◆学生が興味を持つような具体例や言葉選び。学生がこんなに食いついている授業は初めて。

## 7位 メディアと文化発展 (15票)

総合教育研究部 日本文化部門 准教授  
内藤 寿子先生

### 学生からの投票コメント

- ◆些細な疑問や気づきにも、聞けばわかりやすく答えてくださるから。講義は静かだし、進むスピードもちょうどいい、一番楽しい授業。
- ◆書いたものがちゃんとチェックされて返ってくるので、成果が確認できてやる気につながるから。
- ◆先生の記憶力が良く、名前を覚えてもらえる。

## 9位 刑法総論 (13票)

法学部 法律学科 講師  
富樫 景子先生

### 学生からの投票コメント

- ◆レジュメがとても分かりやすく、図や絵を用いた解説も理解にとっても役立ちました。毎回初めに、前回の復習があるのも良いです。
- ◆例え話が上手で、実際の状況を把握しやすい。
- ◆説明が丁寧で1年生でも分かりやすく、刑法に興味を持てたから。

今回は、なんと421名もの先生に投票がありました！ 専門科目への投票が圧倒的に多く、講義や先生への熱意がこもった投票コメントも数多くいただきました。

投票へのご協力、  
ありがとうございました！



※投票コメントは、抜粋・整理したものです。

# 学生FDスタッフ



学生FDスタッフとは

体育会でも、サークルでもない大学直属の学生機関です。学生による学生目線の教育改善を目指して、各学部生や多彩な教職員とともにベスト・ティーチング・アワードなどのイベント企画、広報、運営を行います。

活動内容

- 9月 学生FDスタッフ募集
- 10月 学生FDスタッフ結成式
- 11月 授業アンケート及び  
ベスト・ティーチング賞の広報
- 12月 ベスト・ティーチング賞 選考
- 1月 ベスト・ティーチング賞 発表
- 2月 ベスト・ティーチング賞 授賞式

担当教職員

- 仏教学部 飯塚大展
- 経営学部 青木茂樹
- GMS学部 高媛
- 法学部 田中優企
- 総合教育研究部 東辰之介
- 教務部学務課教育支援係 丸山哲也
- 教務部学務課教育支援係 鈴木弘道
- 教務部学務課教学IR係 石井涼平



## 2016年度学生FDスタッフメンバー

伊藤聖 GMS学部4年



駒澤大学初のベストティーチング賞及び学生FDスタッフのリーダーとして、手探り状態での活動でした。4年生として、最後に大学で大きな案件に関われ、自分自身大きく成長したと思います。来年のスタッフの活動を期待しています。

老川仁美 経営学部2年



学部の違う方と交流する貴重な機会でした。講義や演習などとはまた違った勉強になったと思います。今しか体験できない経験価値を得ることができました。

熊谷優季 医療健康科学部1年



ベストティーチング賞のポスターを見て、大学が変わったと実感しました。自分がその一端を担っているという充実感のある半年間でした。

学生の思いが形になる活動にやりがいを感じられました！



通常の講義だけでは学べないことができます！

安齋奈々 経営学部3年

教員や職員の方々と意見交換をするなど、貴重な経験をすることができました。



古橋広貴 法学部2年

仁藤光一 法学部2年

学生目線から授業をよりよくするための活動ができます。



佐々木優大 経済学部2年

先生方へのインタビューなど、FDスタッフにならなければできなかったことを経験できました。



色々な人とつながりがもてるので人間的に成長ができます。



菅原慧人 法学部2年

小川健太 GMS学部1年

学生自身の手で大学を変えていくという貴重な経験ができました。



他学部との交流を通して段階的成長ができる活動ですのでおすすめです



他 井垣史人 仏教学部3年 八木寿樹 経済学部2年



## 平成28年度 学生が選ぶベスト・ティーチング賞について

駒澤大学FD推進委員会  
駒澤大学FD推進委員会小委員会

学生が選ぶベスト・ティーチング賞とは、駒澤大学FD憲章に基づき、学生から見て効果的であると思われる教育方法を実践する教員を表彰することにより、その教育方法を全学的に共有することで、本学全体の教育の質を向上させることを目的とした、駒澤大学史上初のイベントです。

FDとは、Faculty Development(ファカルティ・ディベロップメント)の略で、大学の授業改革のための組織的な取り組み方法を指します。本学では、これまでもFD推進委員会、同小委員会を中心に、学生による授業アンケート、公開授業、FD研修会など、全教員によるFD活動に取り組んできましたが、さらに発展させるためには、学生目線の活動が必要とされていました。

そこでFD推進委員会、同小委員会にて協議を重ね、平成28年度は、公募により13名の学生FDスタッフを委嘱し、学生目線による教育改善の第一弾として、学生が選ぶベスト・ティーチング賞を開催し、3名の先生を表彰しました。学生ならではの提案が活発にかわされ、特に、広報活動においては、刺激的なポスターやPOP、映像等、今までにない斬新な手法で学生に訴えかけました。

ベスト・ティーチング賞を設けた趣旨は、駒澤大学全体の教育活動の改善に資する取り組みを、授業の中で具体的に展開している事例を見つけ出すことにあります。

できるだけ多くの学生から意見聴取を行いたいという思いから、学生目線での少々刺激的なキャッチコピーを採用しましたが、その背景には、学生による授業アンケートの回答率が伸びていないという事情があり、学生による授業アンケートに対する関心を高める上でも有効ではないかという判断がありました。

開催趣旨や選考基準についても、「単なる人気投票ではない、授業の内容を理解しやすくするための工夫がなされている、と学生自身が感じた授業を全学生から具体的な理由も添えて投票」ということで、分かり易く簡潔に伝えることとしました。

学生スタッフによる選考は、公正、厳粛に行われたと認識しています。

試行錯誤を繰り返し、実際に運営してみて、投票結果の分散や高評価の傾向、学生が求める要素など様々な事実が明らかになってきました。また、受賞者にも喜んでいただけたことが印象的でした。本学初の試みである本事業が、全ての学生、教員双方にとってよい刺激となることを期待するとともに、結果の検証を通じて選考基準や広報等、より充実した制度となるよう次年度に向け改善していきますので、今後ご理解、ご協力の程、よろしく願いいたします。

